

景況調査

報告書 NO. 23

平成16年 4月～6月 実績
平成16年 7月～9月 見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

平成16年度第1四半期(H16.4～6月)景況調査

1. 調査時点

平成16年7月

2. 調査対象

(1) 対象地区

蒲郡市内

(2) 対象(回答)企業

158[152企業、6団体 = 三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	56 (3)	13 (2)	23 (1)	38	17	11	158 (6)

()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前年同期比で見ると 16.5、前期(1～3月・19.5)と比較すると3.0ポイントの上昇、前期比で見ると 14.5、前期(1～3月・28.9)と比較すると14.4ポイントの上昇、いずれも改善の傾向が見られた。また、**売上DI値**についても、前期比で見ると 13.3、前期(1～3月・36.5)と比較すると23.2ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**収益DI値**は 20.2、前期(1～3月・35.3)と比較すると15.1ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**総合判断来期(H16.7～9月)見通し**については、17.7、前期(1～3月・13.8)と比較すると3.9ポイントの下降、やや悪化の傾向が見られる。

「**製造業**」のうち**食料品**は、季節的に需要の停滞期であり、販売先の値下げ要請による利幅圧迫で厳しい環境下にある。**織物**は、ジャカード・カーテン、ドビー・カーテンともに、仕事量は少なく、また白生地織物も広幅・並幅を問わず、仕事量は少なく稼働率も低い。先染織物についても、ほとんど仕事がなく、少ロット物である。**漁網・ロープ**のうち、繊維ロープは、季節的需要期のため出荷額・輸入量とも増加している。漁網は、企業によってパラツキはあるものの受注状況は好転している。**鉄工**のうち、工作機械関係は、輸出・国内向けとも、堅調に生産・売上が維持している。自動車関連は、三菱自動車関連の影響は少なく、新車効果による高いレベルの生産・売上が続いている。**化学・プラスチック**のうち、化学工業は、売上は上昇しているが収益面では厳しい。プラスチック加工は、自動車関連は好調であるが、原料高製品安の懸念が高い。

「**建設業**」は、採算面は厳しい面もあるものの、民間工事など全体として改善傾向にあり、明るい動きが見られた。

「**卸売業**」のうち**繊維卸**は、産業資材関連：商品にパラツキがあるものの、一部の商品に荷動きが出て来ている。寝装関連：予想以上の不調に終わり大変厳しい結果となった。これから時期的に不需要期となり、素材的にも秋冬物素材が乏しく厳しい状況となる。インテリア関連：消費者レベルでは余り売れておらず、在庫が過剰となり、シーズンオフも重なり落ち込んでいる。衣料：好調な岡山地区のデニム業界とは反対に盛り上がりの無いまま終わっている。前シーズンに活況であった薄手のカットポイルなど、わずかに2割程度であった。

「**小売業**」は、カインズ・サンヨネの建設工事が進んでおり、また家電量販店エイデンの移転建築発表があり厳しい状況が予想される。TMO(中心市街地活性化)事業として、空き店舗を使用した「チャレンジショップ」を4月よりオープンし、商店街は夏まつりに向け各種イベントを計画中である。9月よりスタートする「福寿稲荷ごりやく市」も出店者説明会を開催し、50以上出店が予定されている。**石油**は、4月より消費税総額表示と同時期の値上げのため一般消費者にはかなり値上げしたように見られている。販売価格にコスト転嫁ができるかどうかのポイントである。

「**サービス業**」のうち**旅館**関係は、浜名湖花博効果により久しぶりに各旅館に観光バスが訪れ、団体客で活況を呈している。

「**運輸通信業**」のうち**旅客・貨物輸送・水運**は、海運関係：三菱自動車撤退のため早急な集荷活動、ポートセールスが必要である。陸運関係：貨物量については微増である。バス業界：浜名湖花博については順調であるが、距離的に近く収益には結びつかない。路線バスは、あじさい祭りにより岡崎ルートは大幅増であった。

設備投資状況は、全般的には低調だが、回復のきざしがあり、37事業所(45件)で設備投資が実施され、生産設備・車両運搬具・OA機器が上位にランクした。来期は33事業所(39件)が設備投資を計画されている。

経営上の問題点では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、競争激化が項目別・業種別で上位を占めていた。

当地区においても、依然としてデフレの長期化、雇用の停滞、個人消費の低調、設備投資の低調、原油価格高騰による原材料価格の上昇、住宅着工数の低調、中国・アジア製品の輸入拡大、円高等の影響により、4～6月期の業況判断DI(全業種全体)は、まだ水面下にあり、改善の方向にあるが、来期見通しはやや厳しい。集客力を誇る『ラグーナ蒲郡』を核とした観光事業活性化、TMO事業による中心市街地の活性化、蒲郡港利用の再生、中小企業の経営支援などを推進する。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

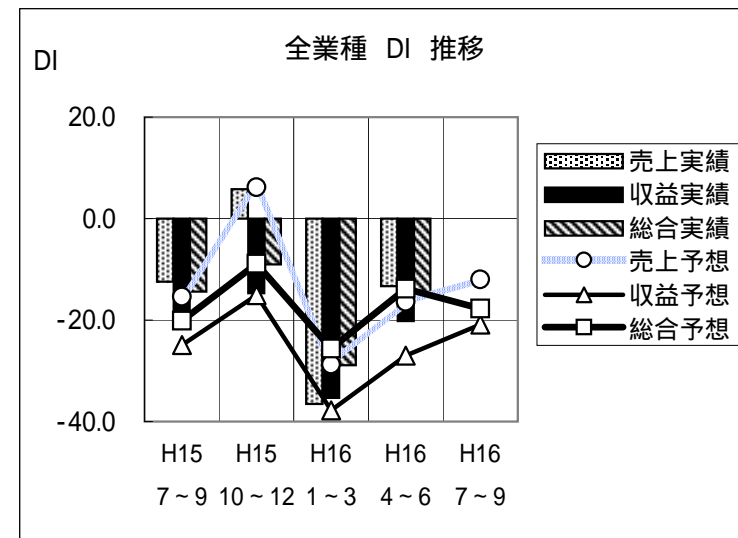
<全業種 各項目別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年4月～6月)	前期比 (平成16年1月～3月)	来期見通し (平成16年7月～9月)		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
生産額・売上額	-17.1	-13.3	-12.0	H15.4～6月実績	-37.3	-31.4	-34.9	-33.1	-26.6	-27.8	-20.1
製品・商品在庫	-7.6	-8.2	-6.3	H15.7～9月実績	-25.5	-12.4	-30.3	-20.0	-23.4	-14.4	-8.9
資金繰り	-12.6	-14.6	-20.9	H15.10～12月実績	-19.9	5.8	-24.4	-14.7	-17.9	-9.0	-25.6
採算(収益)	-24.0	-20.2	-20.9	H16.1～3月実績	-18.9	-36.5	-27.1	-35.3	-19.5	-28.9	-13.8
従業員数(含む臨時・パート)	-3.8	-0.6	0.0	H16.4～6月実績	-17.1	-13.3	-24.0	-20.2	-16.5	-14.5	-17.7
貴社の業況(総合判断)	-16.5	-14.5	-17.7								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等 その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物 輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	H15.7~9月	10~12月	H16.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-12.4	5.8	-36.5	-13.3	-12.0
収益	-20.0	-14.7	-35.3	-20.2	-20.9
総合	-14.4	-9.0	-28.9	-14.5	-17.7

DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数) について
 DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%) = 増加・良好などの割合 - 減少・悪化などの割合

(注) 生産額・売上額 : DI = (増加) - (減少)
 製品・商品在庫 : DI = (減少) - (増加)
 資金繰り : DI = (好転) - (悪化)

採算(収益) : DI = (上昇) - (下降)
 従業員数 : DI = (不足) - (過剰)
 業況(総合判断) : DI = (好転) - (悪化)

DIが0より大 → 景気上向き
 DIが0 → 景気横ばい
 DIが0より小 → 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上 DI 6 ~ 49% DI 5 ~ -5%

DI -6 ~ -49% DI -50%以下

6. 業種別報告

製造業

売上DI値は 1.8、前期実績 1～3月期（ 23.4）に比して21.6ポイントの上昇。収益DI値は 16.0、前期実績 1～3月期（ 28.4）に比して12.4ポイントの上昇、総合判断DI値は 10.7、前期実績 1～3月期（ 23.3）に比して12.6ポイントの上昇、いずれも改善傾向であった。見通しとしては、売上・収益は改善傾向であり、総合は悪化傾向である。

製造業

(DI 単位: %)

	前年同期比 (平成15年4月～6月)	前期比 (平成16年1月～3月)	来期見通し (平成16年7月～9月)
生産額・売上額	-7.2	-1.8	-19.6
製品・商品在庫	-7.2	-7.1	-12.5
資金繰り	-12.5	-21.4	-26.8
採算(収益)	-19.6	-16.0	-25.0
従業員数(含む臨時・パート)	1.8	3.6	-1.8
貴社の業況(総合判断)	-19.7	-10.7	-30.4

[食料品]

売上は前年同期比DI値 42.8と売上げ減少傾向にある。季節的に需要の停滞期であるため、前期比ではDI値0.0と停滞。収益は前年同期比DI値 42.8、前期比ではDI値 28.6と悪化傾向であり、売上不振に加えて、採算面でも販売先からの値下げ要請などによる利幅圧迫で深刻な状況にある。総合判断は前年同期比DI値 42.9、前期比ではDI値 28.6と総じて悪化傾向にある。

向こう3ヶ月の見通し

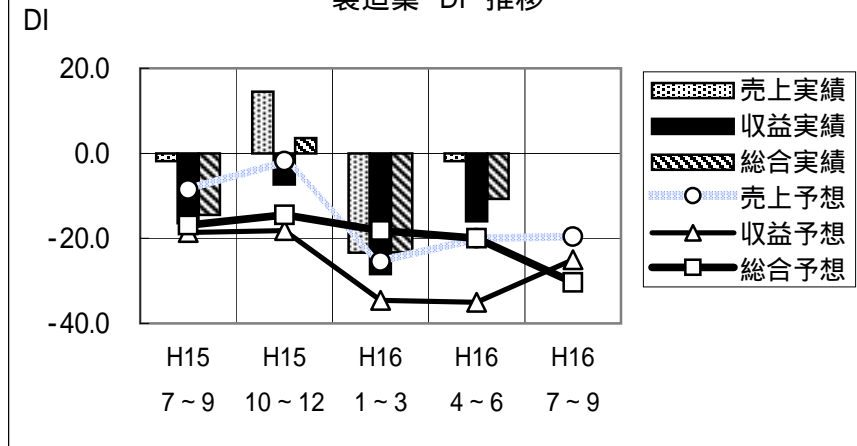
売上はDI値 28.5、収益はDI値0.0、総合判断ではDI値 14.3。食の安全性への対応、安価な海外製品との競争などで、経営環境は厳しさを増している。(食品部会)

(食料品)

(DI 単位: %)

	前年同期比 (平成15年4月～6月)	前期比 (平成16年1月～3月)	来期見通し (平成16年7月～9月)
生産額・売上額	-42.8	0.0	-28.5
製品・商品在庫	-14.3	-14.3	0.0
資金繰り	-14.3	-14.3	-28.6
採算(収益)	-42.8	-28.6	0.0
従業員数(含む臨時・パート)	-14.3	-14.3	0.0
貴社の業況(総合判断)	-42.9	-28.6	-14.3

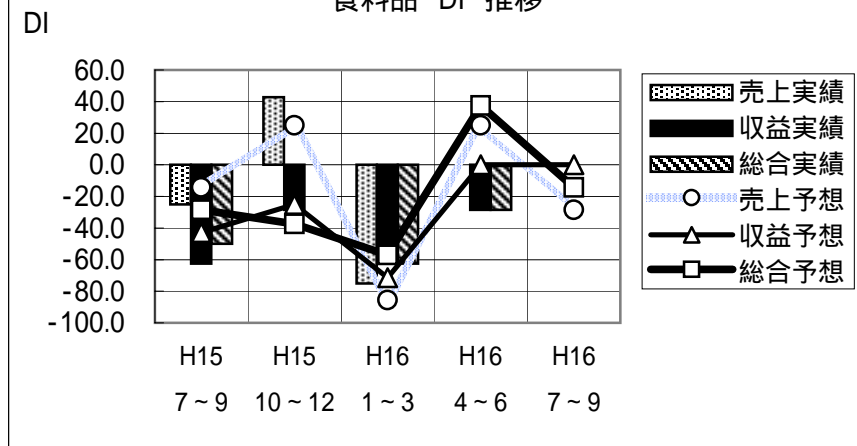
製造業 DI 推移



< 業況判断DIの推移 >

	H15.7～9月	10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-1.8	14.5	-23.4	-1.8	-19.6
収益	-16.4	-7.3	-28.4	-16.0	-25.0
総合	-14.5	3.6	-23.3	-10.7	-30.4

食料品 DI 推移



< 業況判断DIの推移 >

	H15.7～9月	10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-25.0	42.8	-75.0	0.0	-28.5
収益	-62.5	-28.6	-62.5	-28.6	0.0
総合	-50.0	0.0	-62.5	-28.6	-14.3

[織物]

主力商品であるジャカードカーテンについては、全体的に仕事量は少なく、稼働率は50%前後である。ドビーカーテンについても、仕事量は少ない。白生地織物は、広幅・並幅を問わず仕事量は少なく稼働率は70%前後である。先染織物は、仕事量が少ないことに加え、殆ど全てが少ロット物である。しかし、何れも原材料の上昇から採算面は非常に厳しい状況が続いており、期近発注による短納期化・少ロット化が進み稼働率は非常に悪くなっている。

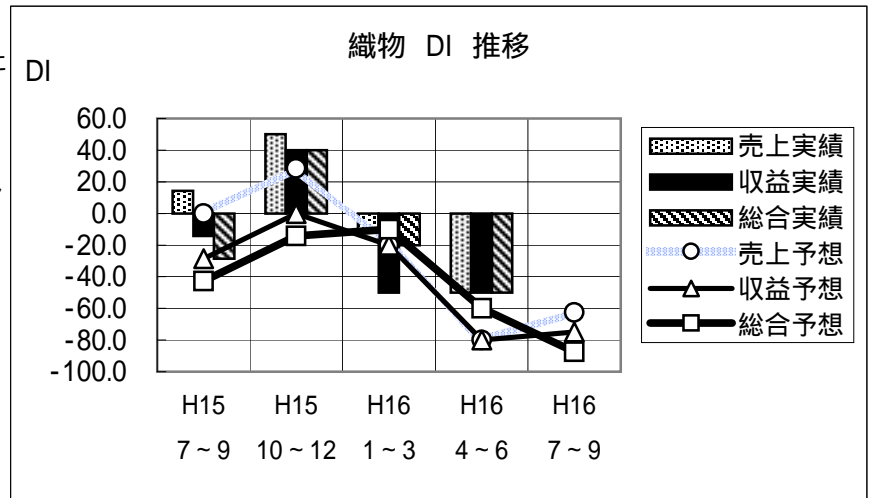
今後の見通し、

ジャカードカーテンは、仕事量は4～6月と同様に端境期であり、まだ仕事量は減少するものと思われる。9月以降になれば年末需要が見込まれ、多少回復するものと思われる。ドビーカーテンも同様である。白生地織物は、時期的に横這いであれば上々と思われる。先染織物は、春夏物が主流であり仕事量の増加は見込めず減少すると思われる。採算面で非常に厳しい状況が続いている中で、原油高騰による影響で合繊糸が値上がり傾向となっており、工賃への圧迫が懸念されている。総体的に、長期に亘る業況不振の影響で資金繰りは非常に悪化しており、運転資金の新規借入れも難しい状況が続いている。(繊維部会)

(織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年4月～6月)	前期比 (平成16年1月～3月)	来期見通し (平成16年7月～9月)
生産額・売上額	-50.0	-50.0	-62.5
製品・商品在庫	-12.5	0.0	-25.0
資金繰り	-50.0	-62.5	-87.5
採算(収益)	-62.5	-50.0	-75.0
従業員数(含む臨時・パート)	-25.0	-25.0	-37.5
貴社の業況(総合判断)	-62.5	-50.0	-87.5



<業況判断DIの推移>

	H15.7～9月	10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	14.3	50.0	-10.0	-50.0	-62.5
収益	-14.3	40.0	-50.0	-50.0	-75.0
総合	-28.6	40.0	-20.0	-50.0	-87.5

[漁網・ローブ]

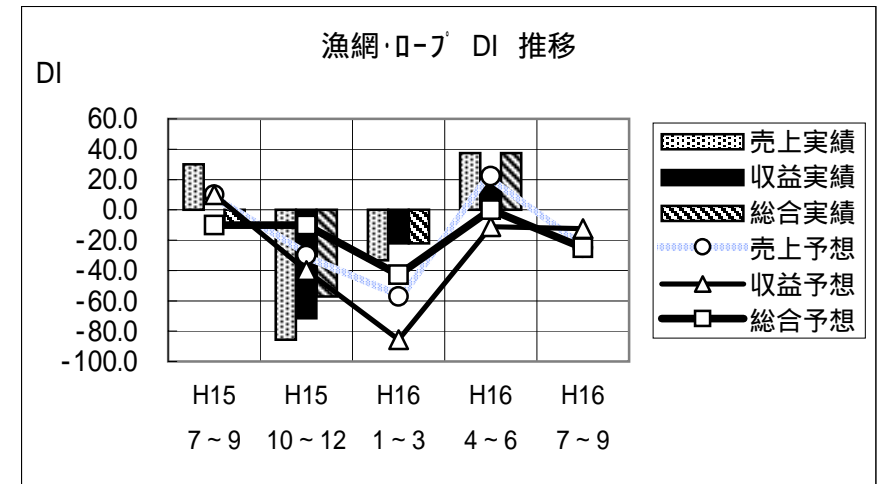
繊維ローブ：4～5月は季節的需要期のため、出荷額・輸入量とも前期より増加を示した。しかし、原価価格の高騰に伴う原料費の上昇が懸念される。

漁網：過去数年と比較して、受注状況は企業によってバラツキはあるものの好転している。一部には従業員の採用増を図るところもある。(繊維ローブ部会)

(漁網・ローブ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年4月～6月)	前期比 (平成16年1月～3月)	来期見通し (平成16年7月～9月)
生産額・売上額	-62.5	37.5	-25.0
製品・商品在庫	-25.0	-25.0	-12.5
資金繰り	-12.5	-25.0	-25.0
採算(収益)	-25.0	25.0	-12.5
従業員数(含む臨時・パート)	12.5	12.5	0.0
貴社の業況(総合判断)	-37.5	37.5	-25.0



<業況判断DIの推移>

	H15.7～9月	10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	30.0	-85.7	-33.4	37.5	-25.0
収益	0.0	-71.4	-22.2	25.0	-12.5
総合	-10.0	-57.1	-22.2	37.5	-25.0

[鉄工]

<工作機械関係>

総じて堅調に生産、売上を維持している。要因は輸出(アメリカ・中国)に支えられており、国内も自動車向けを中心にIT関連、液晶向け設備に出ている。懸念材料としては、素材の鋼材(中国の要因による)の値上げ、原油の高騰、為替の動向などがある。

<自動車部品関係>

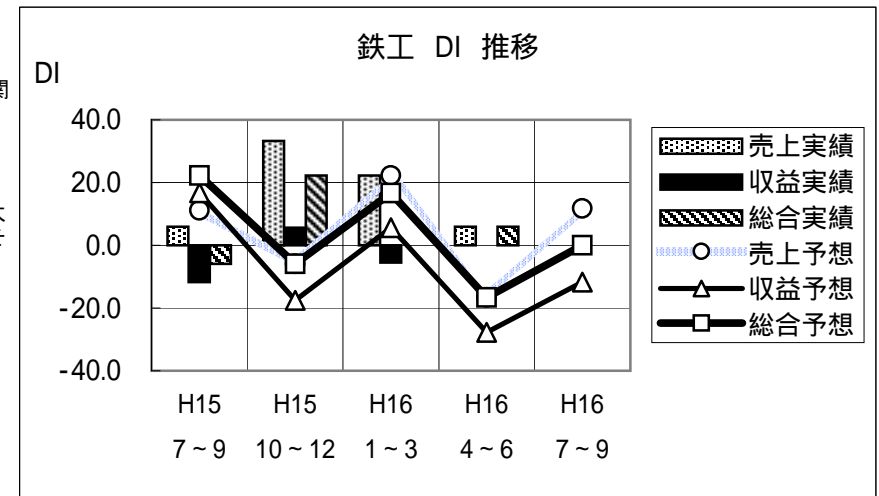
三菱自動車関連では、市内4~5社に影響が出る程度で、下請け企業数が少なく、影響は少ない。このためトヨタ関連の下請けは、車種によっては忙しく、この影響が推測される。依然として堅調に生産、売上を維持しており、小型車から大型車へシフトも見られ、新車効果による高いレベルの生産・売上が続いている。尚、値下げによる納入単価が厳しく、それに比例して収益は上がっていない。懸念材料としては、ガソリンの高騰、為替の動向などがある。

向こう3ヶ月の見通しは

このまま総じて堅調に生産、売上を維持して行くと思われる。(金属鉄工部会)

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年4月~6月)	前期比 (平成16年1月~3月)	来期見通し (平成16年7月~9月)
生産額・売上額	47.1	5.9	11.7
製品・商品在庫	5.9	-5.9	-11.8
資金繰り	5.9	-11.7	-11.7
採算(収益)	11.8	0.0	-11.7
従業員数(含む臨時・パート)	29.4	35.3	23.5
貴社の業況(総合判断)	17.7	5.9	0.0



<業況判断DIの推移>

	H15.7~9月	10~12月	H16.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	5.9	33.3	22.2	5.9	11.7
収益	-11.7	5.6	-5.5	0.0	-11.7
総合	-5.9	22.2	0.0	5.9	0.0

[化学・プラスチック]

化学工業：売上は上昇しているが、原油高による原材料費の増加により、収益が上がらない状況である。

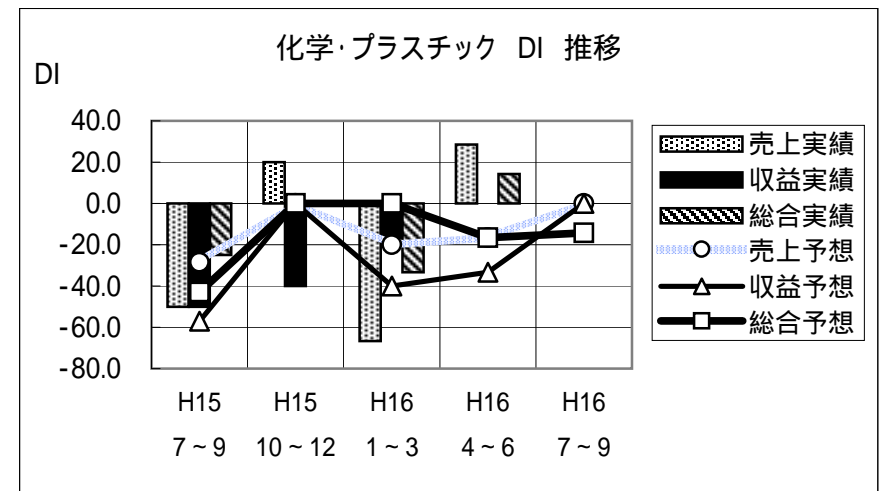
プラスチック製造加工：自動車関連の好調で全体的に売上は伸びているが、原料高に加えて供給量も減少となっており、販売単価の上昇は交渉難で、いわゆる原料高の製品安の状態であるが、全体的では堅調に推移している。

向こう3ヶ月の見通しは

厳しい仕入条件・販売条件で収益確保は困難になるとと思われる。(化学部会)

(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年4月~6月)	前期比 (平成16年1月~3月)	来期見通し (平成16年7月~9月)
生産額・売上額	28.6	28.6	0.0
製品・商品在庫	-14.3	0.0	0.0
資金繰り	0.0	0.0	0.0
採算(収益)	-14.3	0.0	0.0
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	0.0	14.3	-14.3



<業況判断DIの推移>

	H15.7~9月	10~12月	H16.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-50.0	20.0	-66.7	28.6	0.0
収益	-50.0	-40.0	-16.6	0.0	0.0
総合	-25.0	0.0	-33.3	14.3	-14.3

建設業

売上DI値は23.1、前期実績1～3月期（23.1）に比して46.2ポイントの上昇、収益DI値は7.7、前期実績1～3月期（23.1）に比して30.8ポイントの上昇、総合判断DI値は15.4、前期実績1～3月期（15.4）に比して30.8ポイントの上昇、いずれも改善傾向である。見通しとしても、いずれも改善傾向にある。

公共工事は、年度替りもあるが景況感は全体的に堅調である。引き続き公共投資は、削減方向であり、厳しい状況が続くものと思われる。民間工事は、明るい動きは見られるが、相変わらず競走が激しく単価引き下げ要請も多く、採算面は、依然として厳しい状況である。

向こう3ヶ月の見通しは、

公共工事の減少、民間、住宅工事などの競走激化は続き、業界全体の景況感は、明るさも出てきたが、引き続き低調に推移するものと思われる。（建設部会）

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年4月～6月)	前期比 (平成16年1月～3月)	来期見通し (平成16年7月～9月)
生産額・売上額	7.7	23.1	23.1
製品・商品在庫	-7.7	0.0	0.0
資金繰り	15.4	38.5	-15.4
採算(収益)	0.0	7.7	-7.7
従業員数(含む臨時・パート)	-15.4	-15.4	-15.4
貴社の業況(総合判断)	7.7	15.4	0.0

卸売業

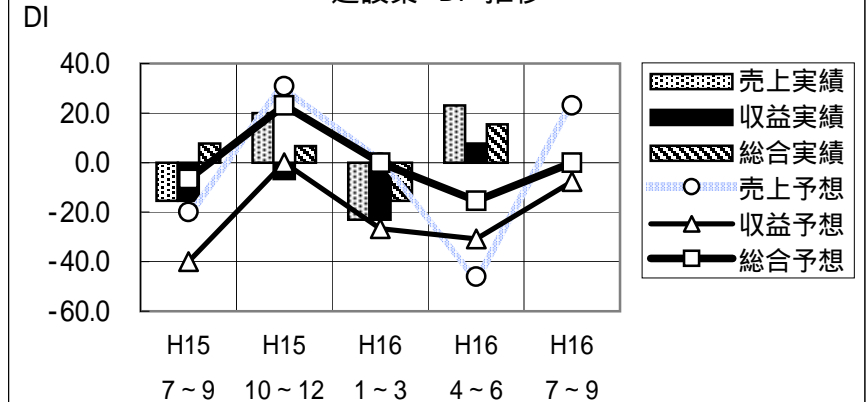
売上DI値は47.9、前期実績1～3月期（41.7）に比して6.2ポイントの下降、悪化傾向にあり、収益DI値は21.8、前期実績1～3月期（50.0）に比して28.2ポイントの上昇、改善傾向にある。総合判断DI値は30.4、前期実績1～3月期（29.2）に比して1.2ポイントの下降と、やや悪化傾向が見られた。見通しとしては、いずれも改善傾向である。

卸売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年4月～6月)	前期比 (平成16年1月～3月)	来期見通し (平成16年7月～9月)
生産額・売上額	-21.7	-47.9	4.4
製品・商品在庫	-26.1	-26.1	-13.1
資金繰り	-13.0	-17.4	-13.1
採算(収益)	-13.1	-21.8	21.8
従業員数(含む臨時・パート)	-21.7	-21.7	-8.7
貴社の業況(総合判断)	-8.7	-30.4	8.7

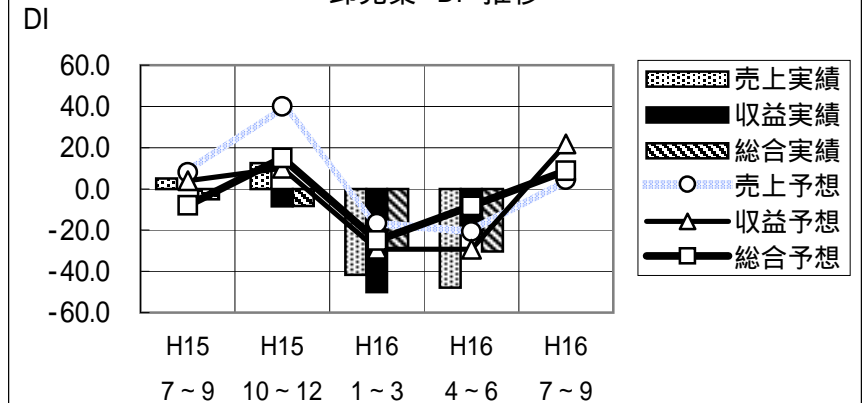
建設業 DI 推移



< 業況判断DIの推移 >

	H15.7～9月	10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-15.4	20.0	-23.1	23.1	23.1
収益	-15.4	-6.7	-23.1	7.7	-7.7
総合	7.7	6.7	-15.4	15.4	0.0

卸売業 DI 推移



< 業況判断DIの推移 >

	H15.7～9月	10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	5.0	12.5	-41.7	-47.9	4.4
収益	0.0	-8.4	-50.0	-21.8	21.8
総合	-5.0	-8.3	-29.2	-30.4	8.7

[繊維卸]

産業資材関連：原料高・製品安の難しい状況のなか、バラツキが有るものここきて一部の商品に荷動きが出てきている。商品の動向がつかめない状況であるが、タイムリーに生産・販売供給を進めている。寝装関連：薄地ポイル調のファンシー素材及び麻混素材等例年の50%以下といった不調に終わり大変厳しい結果となった。

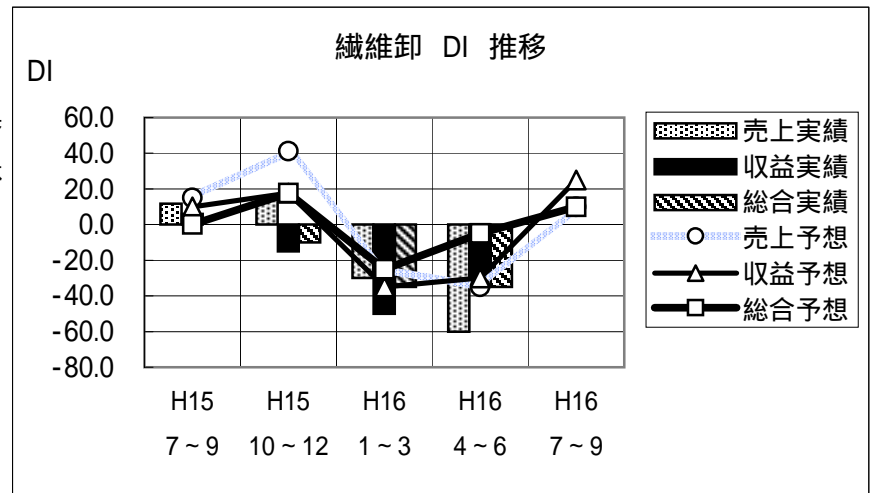
インテリア関連：例年4月よりシーズンオフに入り、落ち込む時期であるが、今年は特にひどく、5月の連休明けからは半減している。この産地に限らず各産地も同様である。

衣料関連：昨シーズンと大きな違いは無く、ある程度の備蓄をしながら大きな期待を寄せていたが、例年どおりの盛り上がりの無いまま終息に向かって終わっている。「夏物は綿織物」からニット・ジャージのカットソーに夏物流行が一部移行したと伝えられており、昨年活況であった薄手のカットポイルなどは、少ししか売れなかった。(繊維部会)

(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年4月～6月)	前期比 (平成16年1月～3月)	来期見通し (平成16年7月～9月)
生産額・売上額	-30.0	-60.0	10.0
製品・商品在庫	-35.0	-35.0	-20.0
資金繰り	-10.0	-15.0	-10.0
採算(収益)	-15.0	-30.0	25.0
従業員数(含む臨時・パート)	-25.0	-25.0	-10.0
貴社の業況(総合判断)	-10.0	-35.0	10.0



<業況判断DIの推移>

	H15.7~9月	10~12月	H16.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	11.8	15.0	-30.0	-60.0	10.0
収益	5.9	-15.0	-50.0	-30.0	25.0
総合	0.0	-10.0	-35.0	-35.0	10.0

小売業

売上DI値は 36.9、前期実績1~3月期(44.1)に比して7.2ポイントの上昇。収益DI値は 36.8、前期実績1~3月期(38.3)に比して1.5ポイントの上昇、総合判断DI値は 36.9、前期実績1~3月期(32.4)に比して4.5ポイントの下降と、売上・収益は改善傾向であった。見通しとしては、いずれも悪化傾向である。

長引く不況により、個人消費は低調に推移し、個店では売上が減少している。TMO(中心市街地活性化)事業として、空き店舗を使った「Fランショップ」を4月よりオープンし、賑わい作りに貢献している。一方で、サンヨネ・カインズ建設工事が進んでおり、5月末には家電量販店エイデンの移転建築計画が発表された。また商店街では、夏まつりに向け、種々のイベントを計画中である。

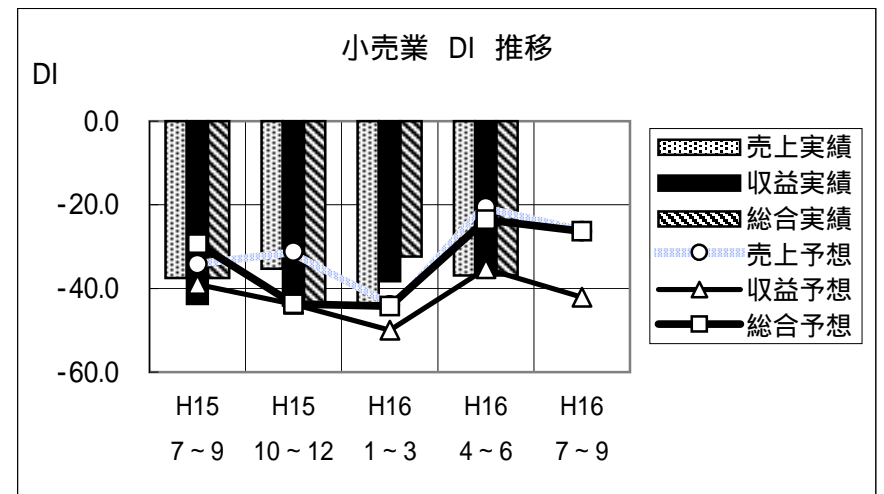
向こう3ヶ月の見通し

個人消費の伸びとあわせて、特にボーナス時期になる為、個店での購買・売上増を期待する。地元商店街ではTMO(中心市街地活性化)事業として、9月26日(日)より1月・2月を除く毎月第4日曜日に「福寿稲荷ごりやく市」を中央通りにて実施する。また、市内各商店街においても夏まつりイベントを開催し、賑わいを期待する。一方で大型店の開店により、あわただしくなると予想される。(商業部会)

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年4月～6月)	前期比 (平成16年1月～3月)	来期見通し (平成16年7月～9月)
生産額・売上額	-47.4	-36.9	-26.3
製品・商品在庫	-2.7	-5.3	0.0
資金繰り	-26.3	-31.6	-29.0
採算(収益)	-55.3	-36.8	-42.1
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	7.9	7.9
貴社の業況(総合判断)	-34.2	-36.9	-26.3



<業況判断DIの推移>

	H15.7~9月	10~12月	H16.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-37.5	-35.3	-44.1	-36.9	-26.3
収益	-43.7	-44.1	-38.3	-36.8	-42.1
総合	-37.5	-44.1	-32.4	-36.9	-26.3

【飲食】

全体的には横バイである。改正消費税の総額表示による「値上げ感」が懸念されたが、ほぼ影響は無い。各個店で支払い額に応じて割引券を発行するなどリピーター獲得に努める必要がある。“あじさい祭り”は周囲の飲食店に好影響を与えている。

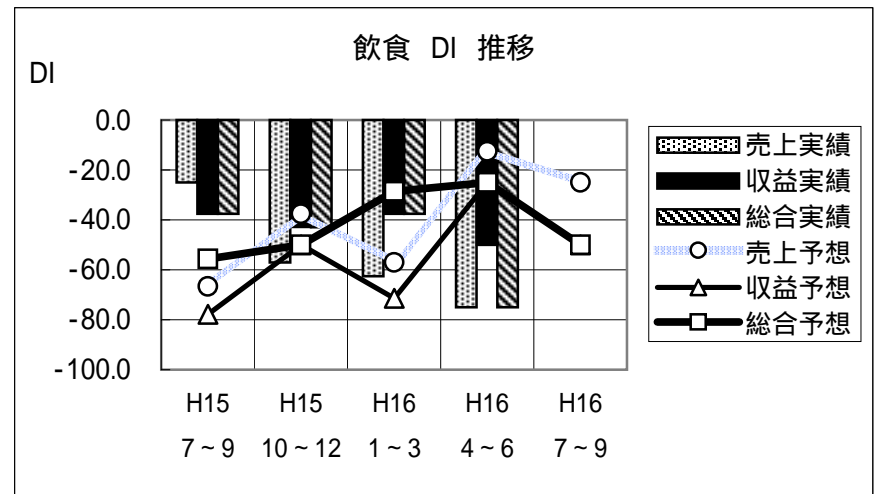
向こう3ヶ月の見通し

行楽シーズン到来で、外食の増加に期待したい。蒲郡まつりや、福寿稲荷ごりやく市など様々なイベントとの相乗効果に期待する。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

(飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年4月～6月)	前期比 (平成16年1月～3月)	来期見通し (平成16年7月～9月)
生産額・売上額	-37.5	-75.0	-25.0
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	-62.5	-75.0	-50.0
採算(収益)	-62.5	-50.0	-50.0
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	12.5	25.0
貴社の業況(総合判断)	-62.5	-75.0	-50.0



<業況判断DIの推移>

	H15.7～9月	10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-25.0	-57.1	-62.5	-75.0	-25.0
収益	-37.5	-42.8	-37.5	-50.0	-50.0
総合	-37.5	-42.9	-37.5	-75.0	-50.0

【石油等その他小売】

湾岸危機以来の原油価格の高騰で、元売各メーカーの度重なる値上げによるコスト高騰を招き、業界にとって予想をはるかに超え、販売価格への転嫁が遅れた5月時点では収支を大幅に悪化したものと思われる。また4月1日以降、消費税総額表示と同時期に値上げの為、一般消費者にはかなり値上げしたように見られている。中国の活発な石油需要の増大及び中東情勢の影響による原油動向と、国内では製油所定期修理等まだまだ不安定要素があり、仕入価格の急落はないと思われ、この環境が続くことを前提に、業界を挙げて市況構築に取り組む他ないと思われる。コスト転嫁がスムーズに運ばないと厳しい経営は避けられない状況である。

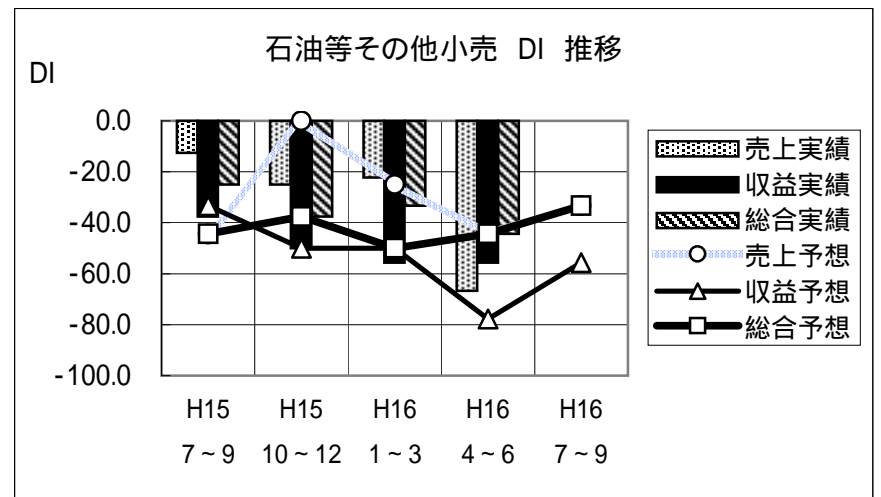
向こう3ヶ月の見通し

ガソリン需要が高まる季節であるが、まず店頭価格、仕入価格(原油価格)、販売量の3点がポイントと考えられる。特に7月以降の原油価格の動向を販売価格へ転嫁することが最重要課題と思われ、適正マージンを確保できるかがポイントである。(エネルギー部会)

(石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年4月～6月)	前期比 (平成16年1月～3月)	来期見通し (平成16年7月～9月)
生産額・売上額	-77.8	-66.7	-33.3
製品・商品在庫	-11.1	-11.1	-11.1
資金繰り	-33.3	-22.2	-33.3
採算(収益)	-66.7	-55.6	-55.6
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	-44.4	-44.4	-33.3



<業況判断DIの推移>

	H15.7～9月	10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-12.5	-25.0	-22.2	-66.7	-33.3
収益	-37.5	-50.0	-55.6	-55.6	-55.6
総合	-25.0	-37.5	-33.3	-44.4	-33.3

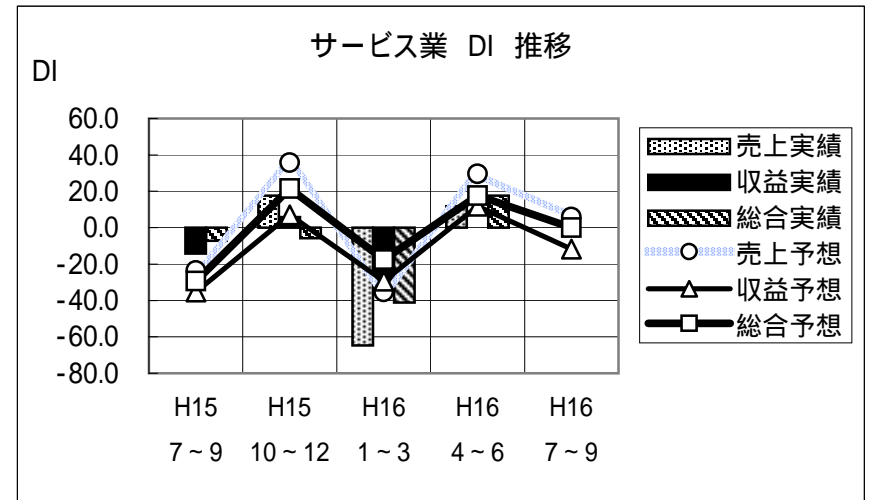
サービス業

売上DI値は11.8、前期実績1～3月期（-64.7）に比して76.5ポイントの上昇。収益DI値は0.0、前期実績1～3月期（-35.3）に比して35.3ポイントの上昇、総合判断DI値は17.6、前期実績1～3月期（-41.2）に比して58.8ポイントの上昇と、いずれも改善傾向であった。見通しとしては、反動でいずれも悪化傾向である。

サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年4月～6月)	前期比 (平成16年1月～3月)	来期見通し (平成16年7月～9月)
生産額・売上額	17.7	11.8	5.9
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	-5.9	5.9	-5.9
採算(収益)	0.0	0.0	-11.7
従業員数(含む臨時・パート)	5.9	5.9	11.7
貴社の業況(総合判断)	0.0	17.6	0.0



< 業況判断DIの推移 >

	H15.7～9月	10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	0.0	17.7	-64.7	11.8	5.9
収益	-14.3	5.9	-35.3	0.0	-11.7
総合	-7.1	-5.8	-41.2	17.6	0.0

[旅館]

4月8日から開催された浜名湖花博は、業界に大きく貢献している。久しぶりに各旅館に観光バスが訪れ団体客で活況を呈している。ただし売上には利用人員の増加分程増えてはいない。売上の伸びとして、前年を大幅に上まわっている施設もあるが、全体的は対前年比10%増というところではないかと推測される。

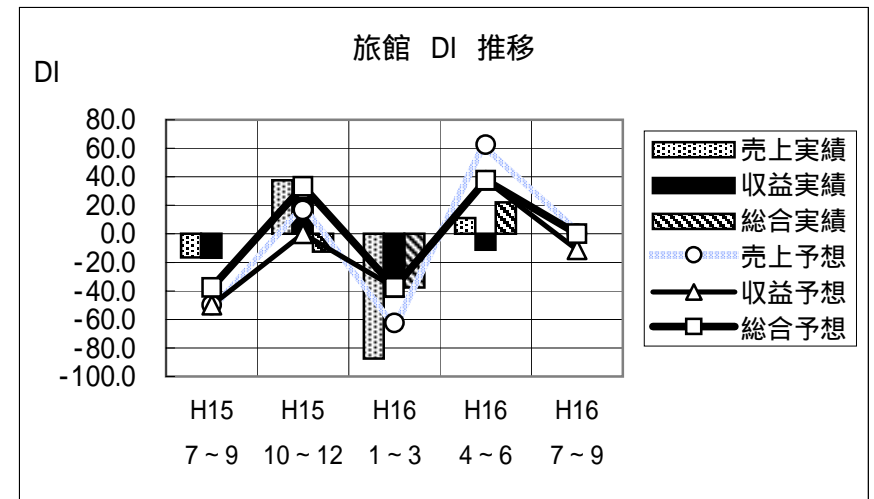
向こう3ヶ月の見通し

浜名湖花博の好調さを維持できることを期待しているが、夏の期間は団体客から個人客・家族客へ移行し、結果、売上の伸びには厳しい状況になると予測される。通常の海水浴客・近場のお客様への取込み成果により、明暗が分かれると思われる。9月については、また浜名湖花博の団体客が戻り、前年を上まわると推測される。(観光部会)

(旅館)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年4月～6月)	前期比 (平成16年1月～3月)	来期見通し (平成16年7月～9月)
生産額・売上額	33.3	11.1	0.0
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	0.0	11.1	0.0
採算(収益)	0.0	-11.1	-11.1
従業員数(含む臨時・パート)	11.1	11.1	11.1
貴社の業況(総合判断)	11.1	22.2	0.0



< 業況判断DIの推移 >

	H15.7～9月	10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-16.6	37.5	-87.5	11.1	0.0
収益	-16.7	25.0	-37.5	-11.1	-11.1
総合	0.0	-12.5	-37.5	22.2	0.0

運輸通信業

売上DI値は0.0、前期実績1～3月期（-45.4）に比して45.4ポイントの上昇。収益DI値は45.4、前期実績1～3月期（-45.4）に比して同値。総合判断DI値は9.1、前期実績1～3月期（-45.4）に比して36.3ポイントの上昇と、売上・総合とも改善傾向にある。見通しとしては、いずれも悪化傾向にある。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年4月～6月)	前期比 (平成16年1月～3月)	来期見通し (平成16年7月～9月)
生産額・売上額	-36.3	0.0	-27.3
製品・商品在庫	0.0	-9.1	0.0
資金繰り	-9.1	-9.1	-9.1
採算(収益)	-27.2	-45.4	-45.4
従業員数(含む臨時・パート)	-9.1	0.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	-9.1	-9.1	-27.3

[旅客・貨物輸送・水運]

海運関係：取扱貨物(木材・木材加工品)は減少している。三菱自動車撤退の話題でもちきりである。

今後の見通し、

三菱自動車撤退のため早急な集貨活動、ポートセールスが必要である。ターゲット貨物等(撤貨物、物品貨物)の洗い出しを検討している。

陸運関係：貨物量については、前期に比べ微増である。特定地域における車両の代替、随時スピードリミッターの取り付け、燃料単価、タイヤ等消費財の高騰による影響で業界の環境は引き続き良くない。また暫定軽油引取税7.8円の撤廃、高速道路使用料の値下げ割引率の見直し等も要請している。

今後の見通し、

景気は良くなっていると言われているが我々には実感が無い。横バイの状況と思われる。長期金利の状況も気になるところである。

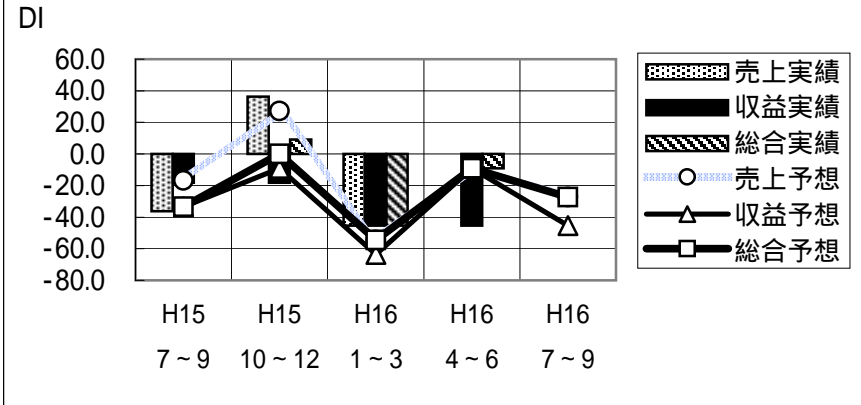
バス業界関係：浜名湖花博については順調な受注があるが、距離的に近く大幅な利益には結びついていない。路線の“あじさい祭り”については、岡崎ルートは大幅増であったが、蒲郡ルートは花博の影響で昨年を下回った。（運輸交通港湾部会）

(旅客・貨物輸送・水運)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年4月～6月)	前期比 (平成16年1月～3月)	来期見通し (平成16年7月～9月)
生産額・売上額	-28.5	-57.1	-28.5
製品・商品在庫	0.0	-14.3	0.0
資金繰り	-14.3	-14.3	-14.3
採算(収益)	-57.1	-71.4	-57.1
従業員数(含む臨時・パート)	-14.3	0.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	-28.6	-28.6	-42.9

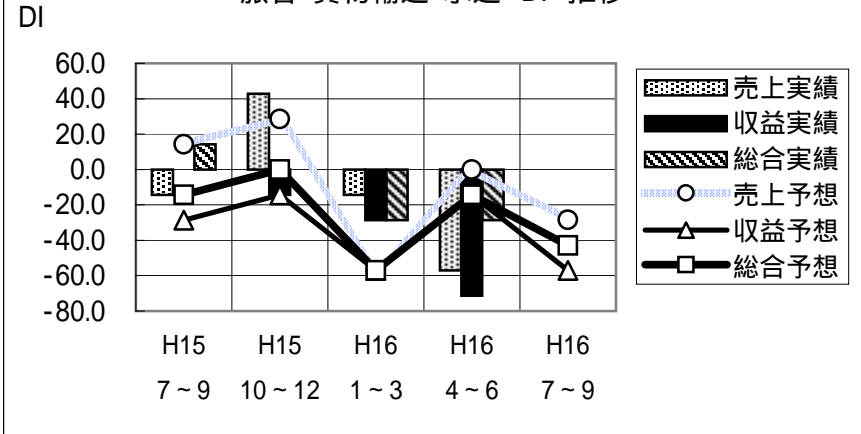
運輸通信業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	H15.7~9月	10~12月	H16.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-36.3	36.3	-45.4	0.0	-27.3
収益	-18.2	-18.2	-45.4	-45.4	-45.4
総合	0.0	9.1	-45.4	-9.1	-27.3

旅客・貨物輸送・水運 DI 推移

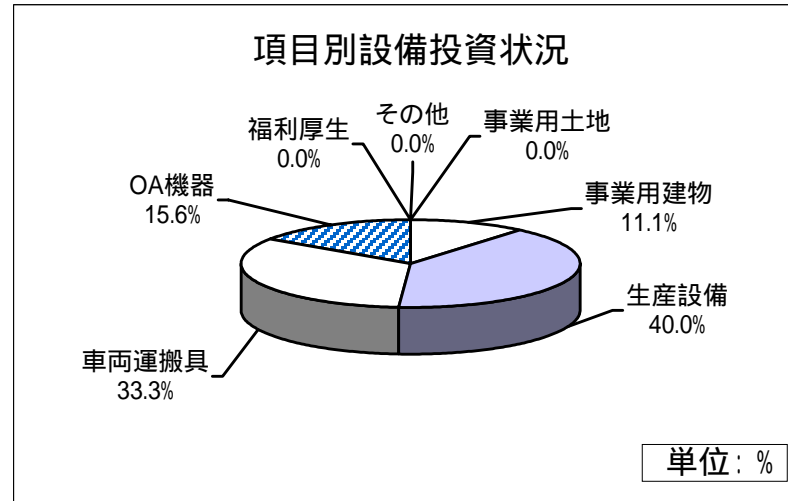
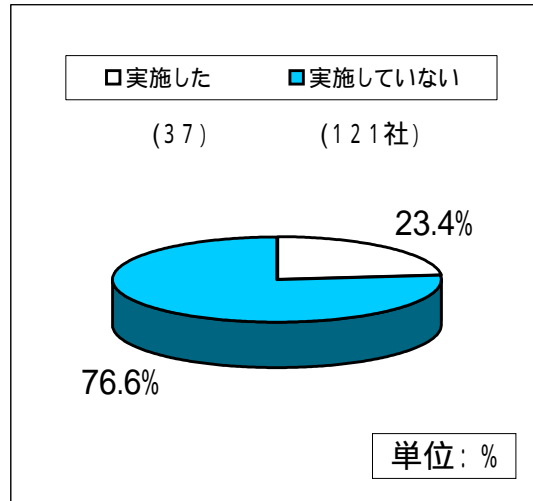


<業況判断DIの推移>

	H15.7~9月	10~12月	H16.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-14.3	42.8	-14.3	-57.1	-28.5
収益	0.0	-14.3	-28.6	-71.4	-57.1
総合	14.3	0.0	-28.6	-28.6	-42.9

7. 設備投資動向

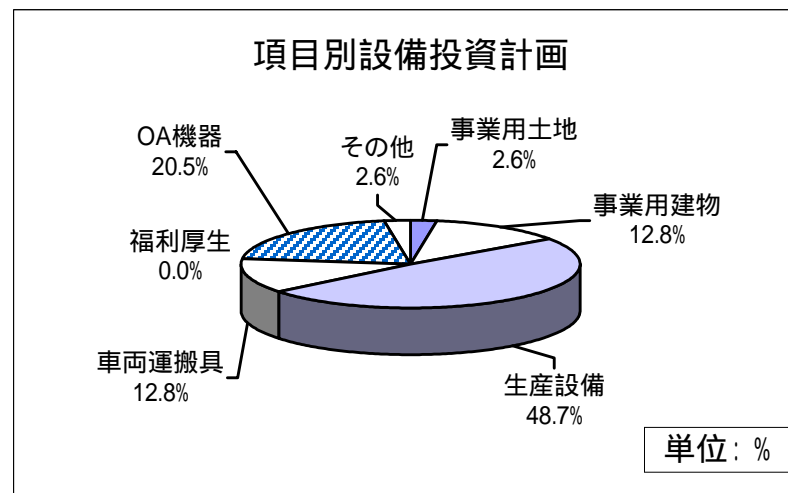
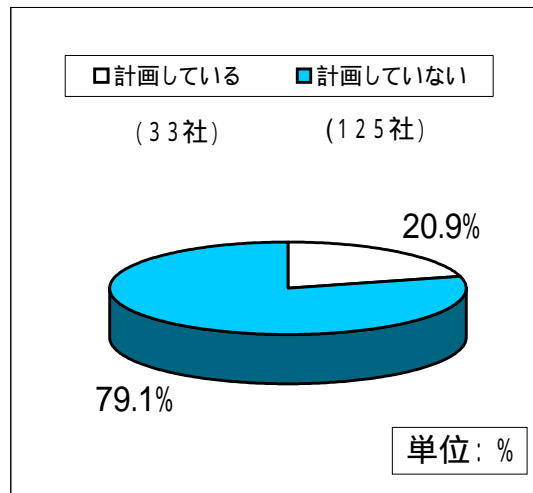
< 今期(H16.4~6月)設備投資実施状況 全業種 >



・4~6月期に設備投資を実施した企業は、37社(23.4%)あり、項目別には45件ある。そのうち生産設備(40.0%)、車両運搬具(33.3%)、OA機器(15.6%)に投資された。

・7~9月期に設備投資計画のある企業は、33社(20.9%)あり、項目別には39件ある。そのうち、生産設備(48.7%)、OA機器(20.5%)、車両運搬具(12.8%)の投資計画である。

< 来期(H16.7~9月)設備計画 全業種 >



設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	0	1
事業用建物	5	5
生産設備	18	19
車両運搬具	15	5
OA機器	7	8
福利厚生	0	0
その他	0	1
計	45	39

(単位:件)

今期(H16.4~6月)、来期(H16.7~9月)設備投資実施、計画動向

	(単位:事業所)						
	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サ-ビス業	運輸通信業
1. 今期(H16.4~6月)	37	19	3	5	4	1	5
2. 来期(H16.7~9月)	33	22	0	2	3	2	4

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 158 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	106 67.1%
2	利幅の縮小	94 59.5%
3	競争激化	78 49.4%
4	原材料(燃料)高	43 27.2%
5	消費者ニーズの変化の対応	28 17.7%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

・項目別経営上の問題点は、前回と比べ順位は同じである。

・業種別経営上の問題点は、全業種とも1位に『売上の停滞・減少』、『利幅の縮小』2位に『売上の停滞・減少』『利幅の縮小』『競争激化』をあげている。

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業	利幅の縮小 56社	売上の停滞・減少 34社 60.7%	原材料(燃料)高 27社 48.2%
建設業	売上の停滞・減少 13社	利幅の縮小 10社 76.9%	競争激化 9社 69.2%
卸売業	売上の停滞・減少 23社	競争激化 11社 47.8%	利幅の縮小 10社 43.5%
小売業	売上の停滞・減少 38社	利幅の縮小 22社 57.9%	競争激化 19社 50.0%
サービス業	利幅の縮小 17社	競争激化 9社 52.9%	消費者ニーズの変化の対応 9社 52.9%
運輸通信業	利幅の縮小 11社	売上の停滞・減少 6社 54.5%	競争激化 5社 45.5%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域デ - タ)

番号	調査項目	単位	H16.7報告	基準日	H16.4報告	基準日	H16.1報告	基準日	参照資料
1	人口	人	81,826	H16.7.1	81,893	H16.4.1	81,991	H16.1.1	市民課住民基本台帳
2	世帯数	世帯	27,223	H16.7.1	27,156	H16.4.1	27,100	H16.1.1	〃
3	15才～65才生産人口	人	53,387	H16.7.1	54,405	H16.4.1	54,612	H16.1.1	市民課
4	外国人登録者数	人	1,461	H16.6.30	1,408	H16.3.31	1,339	H15.12.31	〃
5	建築確認届出件数	件	128	H16.3月～16.5月	114	H15.12月～16.2月	75	H15.10月～11月(2ヵ月)	建築住宅課受付件数(別紙参照)
6	全国完全失業率	%	4.6	H16.5月	5.0	H16.2月	5.2	H15.11月	総務省(別紙参照)
	愛知県完全失業率	%	3.7	H16.1～3月	4.0	H15.10～12月	4.4	H15.7～9月	総務省(愛知県産業労働総務課より)
7	全国有効求人倍率	倍	0.80	H16.5月	0.77	H16.2月	0.74	H15.11月	総務省(別紙参照)
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.85	H16.5月	0.83	H16.2月	0.79	H15.11月	蒲郡公共職業安定所(業務月報より)

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除)前年比	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 前期比(%)年率	消費支出 (全国勤労者)前年比%	新車新規登録届出数 (乗用車 季調・万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	515	3.4	1.0	707.7
1997年度	236	3.5	0.69	3.9	1,341,347	520	0.2	0.2	672.5
1998年度	平均 294	4.3	0.5	18.6	1,179,536	514	0.8	0.8	587.9
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	508	0.9	1.8	586.1
2000年度	320	4.7	0.62	16.6	1,213,157	513	3.0	1.2	596.3
2001年度	348	5.2	0.56	12.6	1,173,170	501	1.2	3.4	590.6
2002年1月	344	5.3	0.51	22.2	84,196	497	2.3	0.9	36.9
2月	356	5.3	0.50	16.1	85,775			5.6	51.7
3月	379	5.2	0.51	22.0	88,865			2.5	77.2
4月	375	5.2	0.52	17.9	98,924			0.6	40.3
5月	375	5.4	0.53	16.6	106,110	497	4.9	2.7	42.1
6月	368	5.4	0.53	7.6	101,502			2.0	50.2
7月	352	5.4	0.54	5.8	96,245			0.5	52.7
8月	361	5.4	0.54	20.3	97,653			0.9	36.6
9月	365	5.4	0.55	2.7	97,238	500	4.2	4.5	56.4
10月	362	5.5	0.56	1.9	103,567	498	0.7	1.0	44.3
11月	338	5.3	0.57	7.2	98,664			2.3	48.1
12月	331	5.3	0.59	0.3	92,184			1.1	43
2003年1月	357	5.5	0.60	18.8	82,770			2.0	38
2月	349	5.2	0.61	1.4	83,399	494	0.2	1.3	52.6
3月	384	5.4	0.60	11.7	87,297			2.6	82.3
4月	385	5.4	0.60	4.3	100,276			1.2	37.9
5月	375	5.4	0.61	12.2	97,970			1.1	42
6月	361	5.3	0.61	12.1	115,081	*497	*3.8	1.1	49.7
7月	342	5.3	0.62	6.1	98,718	*498	*2.7	4.2	52.5
8月	333	5.1	0.63	12.2	92,406			0.6	35.5
9月	346	5.1	0.66	0.6	98,369			2.0	57.2
10月	343	5.2	0.70	23.1	104,572			0.9	46.1
11月	330	5.1	0.73	13.4	98,399	*501	*7.3	0.1	45.8
12月	300	4.9	0.77	18.4	100,826	*506	*6.1	0.0	43.6
2004年1月	323	5.0	0.77	3.0	88,797			1.0	40.4
2月	330	5.0	0.77	9.3	84,950			5.2	53.5
3月	333	4.7	0.77	0.2	93,285			0.1	84.9
4月	335	4.7	0.77	16.9	96,178	—	—	4.0	37.7
5月	319	4.6	0.80	—	98,889	—	—	—	39.6

(総務省)

(内閣府)

(国土交通省)

*は速報値(内閣府)

(総務省)(日本自動車販売協会連合会)